

山縣記念財団からのお知らせ

当財団は、1940年（昭和15年）6月3日、辰馬汽船（のちに新日本汽船、山下新日本汽船、ナビックスラインを経て商船三井となる）の社長であった山縣勝見によって、「財団法人 辰馬海事記念財団」として設立され、今年80周年の節目を迎えました。その後名称変更により、辰馬海事文化研究所、海事文化研究所そして1964年（昭和39年）「山縣記念財団」となりました。また、「新公益法人制度改革」の施策の中で、2012年（平成24年）4月1日からは、内閣府から認可を受け、「一般財団法人 山縣記念財団」として、わが国の海事交通文化の発展に貢献するために、次の3つの事業を柱として、活動しております。

1. 学術研究誌『海事交通研究』（年報）及び海事交通文化の研究及び普及・発展に資する出版物の刊行と関係先への送付
2. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々への「山縣勝見賞」（著作賞、論文賞、功労賞、特別賞）の授与
3. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への助成・協力

つきましては、これら3つの事業について、2021年度分を公募することになりましたので、次ページ以降をご参照の上、応募をお待ちしております。

いずれにつきましても、申請書などの送付先、問合せ先は下記の通りです。
（申請書のExcel/Wordフォームが必要な方は、メールにてご連絡下さい。）

【申請書などの送付先、問合せ先】

一般財団法人 山縣記念財団
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-10-3 正和ビル 5F
TEL：03-3552-6310 FAX：03-3552-6311
E-mail: zaidan@yamagata.email.ne.jp
ホームページ：http://www.ymf.or.jp/

1. 『海事交通研究』第70集への掲載論文等募集のご案内

当財団は、『海事交通研究』を1965年（昭和40年）11月に創刊し、海運とその周辺分野に関する最新の研究成果を発表して参りました。

2021年12月発行予定の第70集につきましても、以下要領にて掲載論文等の募集を致しますので、奮ってご応募下さいますようご案内申し上げます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

・・・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・・・

募集論文について

1. 『海事交通研究』では、これまで、海運、物流、港湾、船舶、船員、造船、航海術、海洋法等関連法規、海上保険等、広くわが国の海事社会及び海事産業に根差した自由な研究に題材を置く論文を掲載して参りました。2021年の第70集も同様の方針の下、応募者の選択による自由なテーマでの論文を募集致します。
2. 本誌では引き続き、海事社会・産業の現代的な問題及び将来的な方向性を捉えて世に問う役割も担い続けていきたいと考えております。そうした視点から、第70集に応募いただく論文のテーマをいくつか例示させていただきました。本誌への投稿を企画されるにあたっての参考としていただければ幸いです。

- (1) 海事産業におけるM&Aについて
- (2) 近年の国際情勢や技術革新を踏まえた海上保険の動向
- (3) 海運における技術革新: AIの利用と展望
- (4) SDGs（持続可能な開発目標）を念頭に置いた海事社会のあり方
- (5) 昨今の日本及び世界の造船産業の現状と技術の進化
- (6) 感染症と海運・船舶・船員・保険

3. 応募資格者：どなたでも応募出来ます。

4. 応募原稿：未発表のもので、原則日本語としますが、相談に応じます。共著も可。

5. 容量：A4版縦置き横書き（40字×40行）で最大12ページ（目次・図表・注等を含む）とします。

6. 応募・審査手順：

- (1) 以下につき、ご了承の上、ご投稿をお願いします。

- ①二重投稿・剽窃・自己剽窃とみなされる論文等の投稿は不可。他誌/媒体にすでに掲載された文章を一定範囲で再掲される場合は必ずご相談ください。
- ②著書や新聞等の文献から引用した場合及び発想を転用した場合は、出典（著者名・

タイトル・発行所名・発行年月等)を明記する。但し、ウェブサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記する。

- (2) 論文等執筆の申請をされる方は「年報掲載論文等執筆申請書」(以下「申請書」という)を2021年1月4日(月)～2月28日(日)の間に、メール・郵便(2月28日消印まで有効)又はFAXによりお送り下さい。(本誌巻末の「申請書」書式を切り取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のWordフォームがお入用の方はご連絡下さい。)
- (3) 当財団の「年報掲載作品編集委員会」(以下「編集委員会」という)が提出された申請書を審査し、論文等の執筆を応諾するかどうかを3月末までにご連絡致します。
- (4) 原稿提出締切日は2021年7月20日(火)23時59分までを財団着信時刻の締切として、メールにて応募のこととします。

7. 提出論文の年報への掲載に際しては、査読(注)を経て、編集委員会での審議にて決定し、9月下旬頃までにお知らせします(論文以外の形式で執筆された作品は査読の対象外です)。発行は、12月上～中旬の予定です。査読を経た論文には、《研究論文(査読付き)》と明記します。

(注) 査読は、研究論文として応募されたものを対象に、大学または大学に準ずる教育研究機関において教育研究の経験のある者、および民間企業等で実務経験のある者の中で、査読対象の論文の研究分野に精通している者によって行い、①新規性・独創性、②有用性、③信頼性・公平性・客観性、④首尾一貫性、課題達成度、具体的提案、⑤読みやすさを評価項目とします。

8. 原稿料：年報に掲載された論文等については当財団所定の料率にて原稿料をお支払いします。
9. 年報掲載論文等執筆申請書・論文等の提出先・問合せ先：本誌 p.113 をご覧下さい。

以 上

2. 「2021 年山縣勝見賞」募集のご案内

当財団は、2008 年（平成 20 年）に設立者の名前を冠した「山縣勝見賞」を創設し、国民生活に重要な役割を果たしている海運を中心とする海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々を顕彰し、その研究成果を対象として表彰する制度を発足しましたが、この度も「2021 年山縣勝見賞」への応募を以下の通り受け付けます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

又、前回の「2020 年山縣勝見賞」につきましては、本誌 p.118 に掲載しておりますのでご覧下さい。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野：海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする著作（共著も可）、論文並びに業績
2. 募集開始日：2021 年 3 月 1 日（月）
3. 応募締切日：2021 年 4 月 30 日（金）（当日の消印有効）
4. 賞の種類及び対象：

① 著作賞	海事関係の単著又は共著で、2018 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までの間に発表されたもの。
② 論文賞	海事関係論文で、上記と同期間に発表されたもの。
③ 功労賞	海事交通文化の発展に顕著な業績のあった個人。特にその業績の対象期間は問わない。
④ 特別賞	上記三賞に匹敵する功績が認められる個人又は法人並びにその事業

尚、既に他の学会又は団体などから受賞している場合でも受賞の資格を有するものとします。
5. 賞金：各賞とも 20 万円
6. 応募手続：応募は、個人・団体の推薦又は自薦によるものとします。

応募者は、当財団宛所定の推薦/申請書（本誌巻末の書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書の Excel フォームがお入用の方はご連絡下さい。）に推薦/申請理由書並びに当該著書・論文コピーを 1 部添付の上提出して下さい。（著書は後日返却します。）推薦/申請書・著書/論文コピー郵送先は、本誌 p.113 をご覧下さい。
7. 受賞者の発表：受賞者の氏名等は、2021 年 6 月に当財団のホームページ、その他海事関連のメディアを通じて発表します。

尚、受賞者への贈呈式は 2021 年 7 月 22 日の「海の日」の前後に行います。

以 上

3. 2021 年度補助金助成申込のご案内

当財団は、海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への支援・助成活動を行って参りましたが、2021 年度につきましても以下の通り募集致しますので、ご応募下さい。尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。又、2020 年度の支援・助成先につきましては、本誌 p.121 に掲載しております。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野 : 海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成
2. 募集開始日 : 2021 年 1 月 4 日 (月)
3. 応募締切日 : 2021 年 2 月 28 日 (日) (当日の消印有効)
4. 申請条件 :
 - (1) 2021 年 4 月から 2022 年 3 月までに実施する事業であること
 - (2) 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興又は調査研究に関連する事業であること
 - (3) 既に実施している事業で、その実績が一定の評価を得ているもの、又はこれから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること
 - (4) 本助成金を利用して活動した後、本助成金の用途に関する事後報告を速やかに行うこと
5. 申請手続 : 応募者は、当財団宛所定の申請書 (本誌巻末の書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書の Word フォームがお入用の方はご連絡下さい。又はこれに代え、募金趣意書などを提出して下さい。) 申請書提出先は、本誌 p.113 をご覧下さい。
6. 審査結果の発表 : 助成審査委員会 (2021 年 3 月上旬開催予定) により審査し、理事会 (2021 年 3 月中～下旬開催予定) に答申。結果は、4 月上旬までに申請者宛連絡します。

以 上

4. 2020年山縣勝見賞の結果報告

「2020年山縣勝見賞」の受賞者を次の通り決定しました。

受賞者、及び受賞内容につきましては以下の通りです。

(受賞者略歴は受賞時点のものです。)

なお、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年行っていた贈呈式を取り止めました。

記

≪著作賞≫

小林 登 (こばやし のぼる) 著

『定期傭船契約論』(信山社出版、2019年7月刊行)

受賞者略歴

1947年生まれ。1972年東京大学法学部卒業、1987年上智大学法学部助教授、1992年同教授、同年K・ルーヴァン大学客員教授(1992年12月まで)、同年パリ第二大学客員研究員(1994年9月まで)、1996年東北大学法学部教授、1999年成蹊大学法学部教授、2004年パリ第一大学客員研究員(2006年9月まで)、2016年成蹊大学名誉教授。主要著書は、『現代商法入門』(有斐閣、2014年)、『保険法コンメンタール(損害保険・傷害疾病保険)』(同、2014年)。

受賞理由

我が国の海商法において、長年極めて重要であり、解決が難しい問題の一つとされてきた定期傭船契約に関し、2018年に運送法、海商法に関する規定が大幅に見直され、新たに商法に定期傭船契約に関する規定が置かれることになった。そこで、そのような改正がなされた背景や議論の状況はどのようなものであったのかを、英米法とドイツ法を中心に、フランス法も含んで幅広く比較法的考察により解明した本書は、著者の長年の研究の集大成であると同時に、時宜を得た著作と評価する。

≪著作賞≫

水本 邦彦 (みずもと くにひこ) 著

『海辺を行き交うお触れ書きー浦触の語る徳川情報網ー』

(吉川弘文館、2019年8月刊行)

受賞者略歴

1946年生まれ。1975年京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、現在京都府立大学・長浜バイオ大学名誉教授、文学博士。主要著書は、『近世の村社会と国家』(東京大学出版会、1987年)、『草山の語る近世』(山川出版社、2003年)、『徳川の国家デザイン』(小学館、2008年)、『村一百姓たちの近世ー』(岩波書店、2015年)。

受賞理由

江戸時代に全国の海辺の町や村に行き交っていた海運・海難に関するお触れ書き「浦触（うらぶれ）」を、40年以上にわたり、北は青森から南は四国・九州まで踏破、全国各地に残された古文書を調査することで、その当時の通信手段や伝達された内容を調査し、徳川幕府体制の情報ネットワークの実態解明に迫った。これは、わが国の海事交通文化の研究・普及発展に貢献する研究成果と言える。

《論文賞》

該当者なし

《功労賞》

池田 宗雄（いけだ むねお）（元東海大学海洋学部教授）

受賞者略歴

1938年生まれ。1961年東京商船大学航海科卒業・三井船舶入社、1968年甲種船長、1969年東京商船大学専攻科修了、1981年大阪商船三井船舶（株）船長、1988年（財）日本気象協会航路気象部部長代理、1992年（社）日本海難防止協会海上交通研究部部長、1996年東海大学海洋学部教授、2002年工学博士、2013年海事技術史研究会会長、現在同会顧問。主要著書は、『船舶運航のABC』（成山堂書店、1983年）、『船舶知識のABC』（同、1983年）、『港湾知識のABC』（同、1986年）、『七つの海を行く』（交通研究協会、1993年）。共著に『産業と気象のABC』（成山堂書店、1990年）、『生気象学の事典』（朝倉書店、1992年）がある。

受賞理由

海事関係の入門書である『船舶知識のABC』『港湾知識のABC』はロングセラーとなっており、海事関係者のみならず、広く一般読者にも受け入れられている。また、海運会社や学界他でも活躍され、広範囲にわたり顕著な足跡を残している。こうした海事産業全般に対する多大なる貢献と功績は功労賞に値する。

《特別賞》

菊池 金雄（きくち かねお）

受賞者略歴

1920年生まれ。1939年無線電信講習所（現電気通信大学）修了、1940年大同海運入社、北米・東南アジア航路に乗船。戦時中、陸・海軍徴用船乗組み通信士官として戦火の海を挺身、1951年大同海運退社、海上保安庁入庁、1981年海上保安庁退職、1984年保護司委嘱、2000年退任、2020年6月満100歳を迎える。

受賞理由

太平洋戦争を徴用船員として生き抜き、2002年5月体験記を著書『硝煙の海』

（武蔵野文学舎）として上梓。同名のホームページも起ち上げ、戦時中の徴用船にまつわる秘話の聞き取り調査も、閲覧者と交流を重ねながら行っている。長年にわたる太平洋戦争時の徴用船の記録/取材活動を通じて、海事交通文化の発展に寄与したことを評価する。

以 上

5. 2020 年度補助金助成の報告

2020 年度当財団補助金の助成先と助成に係わる事業名を公表致します。
尚、諸般の事情から金額の公表は差し控えます。ご了承のほどお願いします。(敬称略)

・公益社団法人日本海洋少年団連盟

「褒状山縣賞」授与事業

「特に優秀な団員又は卒団後も引続き団員の指導等に当たっている指導者の顕彰、知識の更なる向上とモチベーションの昂揚を図り、人材の確保と海洋少年団活動の更なる活力向上を図ること」を目的に、同連盟第3代会長で、山縣記念財団創設者でもある山縣勝見の名を冠して 2010 年度創設され、授与式には当財団理事長が出席しています。

「我ら海の子展」事業

1973 年以来毎年開催されている「船、海や船で働く人、海の環境保全や景色など」をテーマにした児童絵画コンクールで、未就学児・小学生に加え、2016 年度からは中学生も対象に加わり、2020 年度は全国の子供達からの応募 3,831 点の内から、国土交通大臣賞 3 作品（中学生の部、小学生高学年の部、同じく低学年以下の部）はじめ、主催者、後援者、個人審査員による特別賞、金賞、銀賞並びに東日本大震災を機に創設された「がんばろう日本賞」の合計 63 作品に各賞が贈られました。尚、当財団からは「山縣記念財団理事長賞」を贈呈しています。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、授賞式については、残念ながら中止となりました。

カヌー一等海上資機材整備事業

カヌーや SUP 等の海上資機材は、海洋少年団の活動の幅を低年齢層や地域の少年少女等に広げるのに有効との趣旨に賛同し、それらインフラの整備を支援しています。

・「寄付」東京海洋大学附属図書館

第 12 回企画展示 船が育んだ江戸～百万都市・江戸を築いた水運～

(4) 恵みー商品、取引、文化ー

百万都市江戸の成立・成長の姿を探る展示のシリーズとして第 1 回の 2017 年から支援を続けており、今年も 4 回シリーズの最終回として、江戸と全国各地を結ぶ輸送ネットワークや、それによって江戸にもたらされた物資、食材で生み出された食文化等に焦点を当て、展示会や講演会を開催。

・野村 憲一（国立病院機構さいがた医療センター医師）

日本海をはさんだ、ポーランド人、ラトビア人と日本人との関係史の調査・研究

・松田 琢磨（日本海事センター研究員）

コンテナ市況予測に関するモデル構築

・千葉 元（大島商船高専教授）

船舶関連の海洋汚染防止の法体制と現場の実情に関する調査

・井上 敏孝（常磐会学園大学専任講師）

戦前期の日本外地における築港政策とテクノクラートに関する一考察—朝鮮における築港事業を中心に

なお、以下の助成申請事業についても助成が認められましたが、諸般の事情により今年度の実施が危ぶまれることから、各申請者より辞退の申し出がありました。

・東京海洋大学海事普及会（海事普及のための学校等）巡回活動事業

「海と船の教室」

目的：下記の3つを目指す長期的なプロジェクト

- ① 暮らしを支える海事産業について関心を持ってもらう
- ② 日本が海洋国であることを理解してもらう
- ③ 将来の進路選択や職業選択に海事産業を加えてもらう

・NPO 法人故郷の海を愛する会 海から始まる物語 IN 2020

主に三重県内に在住する小中学生に対して、故郷の海を愛する心を育て、素晴らしい日本と日本の海を認識し『希望と憧れ』の気持ちを醸成させるために、体験航海、港や造船所、火力発電所などの見学会、講演会などを実施。

・福山秀夫（㈱ジェネック勤務）、男澤智治（九州国際大学現代ビジネス学部教授）

共同申請

「中欧班列と日本発貨物をいかにつなぐか」をテーマに、未調査の中国内陸地の調査を検討中

以 上

2021年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

年報掲載論文等執筆申請書

下記の内容にて『海事交通研究』（年報）2021年第70集に寄稿したく、申請致します。

記

1. 執筆者氏名

2. 所属

3 連絡先

住所: 〒 -

TEL: () - FAX: () -

E-mail: @

4. 執筆希望論題

「 」

5. 執筆の趣旨・概要（300字～500字程度）

以 上

山縣勝見賞推薦/申請書

(推薦/申請年月日) 2021年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団
理事長 郷古 達也 殿

賞の種類		①著作賞 ②論文賞 ③功労賞 ④特別賞 (該当分に○をつけて下さい。)	
受賞対象内容	a. 著作(書籍)又は論文名		
	b. 論文賞の場合の種別	学位取得論文(博士/修士)/左記以外(掲載誌:)	
	c. 発行者 (学位論文の場合は大学名)		d. 発行/発表年月 年 月
	(フリガナ)		f-1 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)
	e-1 氏名 (著作・論文の場合、著者)		
	(フリガナ)		f-2 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)
	e-2 氏名 (著作で、共著者がいる場合)		
	(フリガナ)		f-3 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)
	e-3 氏名 (著作で、共著者がいる場合)		
推薦/申請理由	(別紙又は裏面に記載してください。)		

記載箇所：①はb以外全て、②は全て、③はe,fのみ、④はe,fに加え対象としたい事項をaに記載して下さい。なお、本件についての今後の連絡先を上記e-1～3の方とする場合はその方の連絡先(メールアドレスなど)を併せてご記入ください。

- 添付物： 1. 推薦/申請理由書
2. (著作賞の場合)
対象書籍 (返却希望 寄贈可 いずれかに✓を入れてください)
3. (論文賞の場合) 1. 学位論文の場合は本文・要旨・審査結果報告 2. その他の論文の場合は本文または掲載サイトのURLをお知らせください

上記の通り、「山縣勝見賞」に推薦/申請します。

(※推薦/申請(=自薦)のどちらかに○印を付けて下さい。)

氏名 (団体の場合は、団体名・役職・個人名)

住所 〒 -

電話番号 () -

メールアドレス @

勤務先(役職)又は職業

2021年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団
理事長 郷古 達也 殿

(申請者)

住所

氏名 (団体の場合は団体名と代表者名)

補助金助成申請書

下記の通り、海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成を申請致します。

記

1. 補助金助成を申請する事業名
2. 補助金の申請額 円
3. 補助金の必要時期（当財団よりの振込希望時期）： 年 月
4. 事業の目的・申請理由（出来るだけ詳細に記述して下さい。）

5. 本事業（総額）に係わる収支案

（※収入（総収入）として、本補助金申請額及び他の調達方法、支出（総費用）として、具体的使途・金額を記入して下さい。）

収入予定			支出予定		
年月	内容	金額（万円）	年月	内容	金額（万円）
	本補助金				
合 計			合 計		

6. 以下の「申請条件」全てについて了承した上で、本件を申請します。

（各項目の□に、了承の場合はを入れて下さい。）

- 2021年4月から2022年3月までに実施する事業であること
- 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興又は調査研究に関連する事業であること
- 従来実施したことのある事業で、その実績が一定の評価を得ているもの、又はこれから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること
- 振込は貴請求書又は寄附金受入通知（金額、目的、振込口座、名義、振込希望年月日を記載）に対して行うこと
- 本助成金を利用して活動した後、本助成金の使途に関する事後報告を、遅くとも2022年4月末までに行うこと
- 補助金を使い切らなかった場合は、ご申請以外の使途に流用することなく、当財団に差額を返金すること
- 本活動の成果について対外発表する場合は、当財団補助金による活動である旨の記載/言及を行うこと
- （申請者の所属する大学等が会計処理を担当する場合のみ）一般管理費等に充当することなく、申請者の研究等事業に全額充当すること

7. その他参考事項

（申請者事業概要についてホームページで公表している場合は、URLをご記入下さい。）

8. 本件担当者名・連絡先住所及び電話・E-mail など

以 上